

The 2018 Society for Research on Biological Rhythms Meeting に参加して

河本 尚大・川崎 洸司[✉]

早稲田大学大学院 先進理工学研究科 細胞分子ネットワーク研究室

5/11~5/16 アメリカ合衆国フロリダ州アメリア島の the Omni Amelia Island Plantation Resort で開催された 2018 SRBR meeting に参加してきましたので、大会参加記の報告をさせていただきます。当研究室からは教授の岩崎さん、川崎、河本の3人の参加でした。学生2人（D2）は初の国際学会参加、さらに初アメリカだったので、英語への不安、長時間のフライト、時差ぼけなど心配事が絶えませんでした。成田から出立、ダラスフォートワース空港で乗り継ぎのために3時間ほど滞在し、フロリダのジャクソンビル空港着の空路を利用し、合計約15時間ほどのフライトにぐったりしながらジャクソンビルへ。空港から宿泊地の Amelia Island Plantation Resort へ向かう方法はタクシーかレンタカーがあり、我々は何とかタクシーでリゾートに到着。道中は大西洋？の非常に綺麗な景色やアメリカらしい広い道路に少しウキウキ。大会期間中は2ベッドルームに4人（名古屋大の早坂先生、岩崎さん、川崎、河本）で宿泊し、洗濯機の故障や部屋替えで多少のトラブルはあったものの、非常に楽しくリラックスして過ごせました。到着した当日から特に時差ぼけらしき症状はなく体調的には良かったのですが、時間生物学徒としては Jet-lag を肌身で感じられず、少し肩透かしをくらったようで残念でした。もしかしたら朝

食を毎日作ってくれた岩崎さんのおかげかもしれません。この場を借りてお礼申し上げます。

本大会前日には Trainee-day で大学院生、若手研究者向けのレクチャーを1日受けました。当たり前ですが四六時中英語なのでとても消耗しました。以後、英語が辛かったという話は省きます。夜にはオープニングレセプションで見知らぬ方たちと食事を共にしました。同じくアジア圏からアメリカに留学に来ている学生と話す英語、コミュニケーション能力の高さに驚きました。



図1. 岩崎さんによる料理の一例

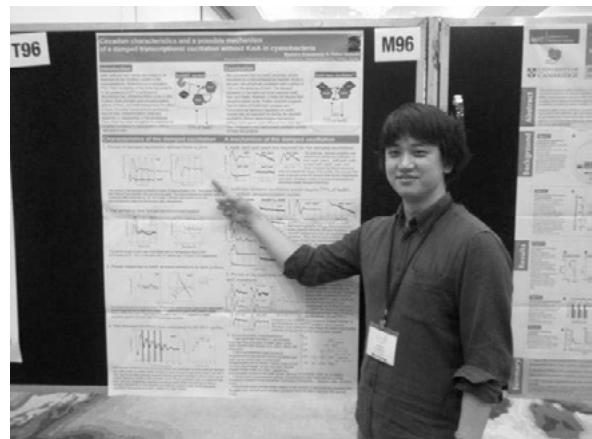
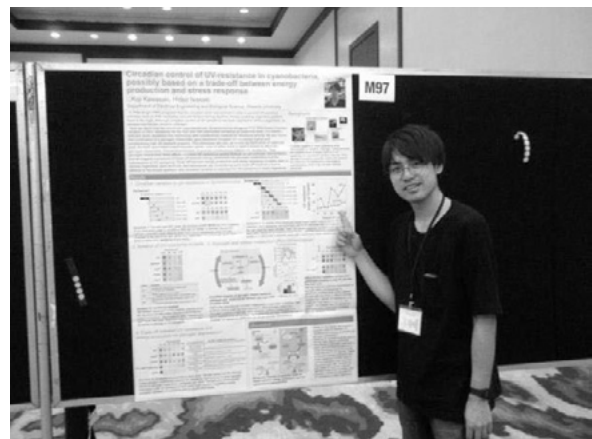


図2. ポスター会場にて（上：川崎，下：河本）

[✉] k.boc.wlk02@gmail.com

5/12より学会がスタート。どれも面白そうなシンポジウム、発表なので研究室の3人である程度分担し、色々な話題を学びました。ゲノム編集による非モデル生物の時計研究などは特に興味深く、その他の研究も日本時間生物学会の年会とは毛色が異なるものも多い印象でした。私たちのポスター発表は大会3日目で前日から緊張しっぱなしでした。オープニングで知り合った学生やシアノバクテリア時計研究者の方々がポスターに来てくれ、汗を流しながら説明をしました。大会の合間には早坂先生にドライブに連れ出していただけフロリダの風を感じたり、SRBRに参加していた日本の皆様とOld Townへと出かけたりと楽しませていただきました。

4日目には今大会の目玉の一つだと言える「A Celebration of the 2017 Nobel Awards」が開催されました。2017年ノーベル生理学・医学賞を受賞した3名の研究者のうちMichael W. Young博士、Michael Rosbash博士のスピーチを聴くことができたとても貴重な講演でした。スピーチの中ではノーベル賞受賞時の数々の裏話や、当時の研究の様子が詳細に語られました。挙げればきりがありませんが、最初に作製したショウジョウバエの行動測定装置やアクトグラム、初めてperのタンパク質のリズムが検出されたOriginalのゲル写真などなかなか見ることのできない写真が登場し胸が躍りました。「これがあの有名な…」と思わされる話の連続でした。欠席されていたもう1人の受賞者のJeffrey C. Hall博士のコメントも動画でRosbash博士より紹介され、この紹介もまた同じ時代を3人で探求してきた特別な繋がりを感じさせてくれるものでした。



図3. A Celebration of the 2017 Nobel Awardsの会場

最終日となり疲労もピークでしたが、身体にムチを打って会場へ。この日のシンポジウムは自身の研究に関連が深い発表が多く、必死で理解し自身の研究に生かしたい気持ちでなんとか乗り切ったような気がします。夜には「Closing Banquet and Awards」が開催され、食事が1人1人にサーブされるという形式に驚かされました。次の日の飛行機の時間が早いこともあり宿に帰ろうと支度していると、東大の吉種先生にSRBRに来たらぜひダンス踊らなきゃ、という旨のお言葉を頂きましたが泣く泣く会場を後にしました。ダンスは次回に持ち越したいと思います。

最後に学会とは直接関係ないですが一点。帰りの飛行機は現地早朝発でしたがジャクソンビル空港にはすでに長蛇の列。セキュリティチェックにかなり時間がかかり、搭乗できたのは出発5分前でした。今後SRBRがアメリカで開かれる際にジャクソンビル空港を使用する場合には注意した方が良くもかもしれません。

大会に参加し、世界のトップを進む研究者や同年代の研究者から多くの刺激をもらい、より一層自身の研究を続けていく励みになりました。さらに英語でのプレゼンや会話など漠然と不安に思っていた部分が「出来ること」「まだまだ努力しなければならないこと」と整理できたことは今回のチャレンジの良い結果だったと思います。

最後になりましたが、今回このような形で学会参加記を投稿させて頂ける機会を与えてくださった日本時間生物学会関係者の方々にお礼申し上げます。また、大会開催期間中に現地でお世話になりました先生方にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。



図4. Closing Banquetの様子